

工場見学会のお知らせ

10月13日に栃木工場見学会を開催させていただきました。おかげさまで、ご好評につき、今般、埼玉工場におきまして、株主様向けの工場見学会を開催いたします。皆様のご応募をお待ちしております。

開催概要

見 学 場 所：埼玉工場 (埼玉県深谷市)
同工場では、ホンダ様のフィット、ヴェゼル、ステップワゴンなどの車体部品を生産しております。

集合・解散：JR大宮駅 南改札口 (バスにて埼玉工場まで送迎いたします。)
※お車等での工場への直接のご来場はご遠慮ください。

開 催 日 程：2016年3月4日 (金) 13:00 (予定)

内 容：概要説明の後、徒歩にて構内を概ね30分程度ご見学いただく予定です。

対 象 者：2015年9月末時点の当社株主様

募 集 人 数：20名

参 加 費：無料 (但し、集合・解散場所までの交通費や宿泊費等は各自のご負担とさせていただきます。)



応募要領

応 募 方 法：同封の「株主様アンケート」に記載の「工場見学会へご参加を希望される株主様へ」の欄に必要事項をご記入のうえ、ご返送ください。

応 募 締 切：2016年1月8日消印有効とさせていただきます。

当 選 発 表：応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。当選発表につきましては、当選者へのご連絡をもって代えさせていただきます。その際、当日の運営等詳細もあわせてご連絡いたします。

※ご応募により当社が取得する個人情報、本見学会を実施する上で必要な限りにおいてのみ使用いたします。

お問い合わせ先

株式会社ジーテクト 工場見学会係

電話番号 048-646-3404 9:00～17:00 (土、日、当社休日を除く)

ホームページのご紹介 <http://www.g-tekt.jp/>



IR CONTENTS

ニュースリリース
決算情報やプレスリリースなど、最新情報をご覧ください。

IRライブラリ
決算短信や決算説明会資料、過去の株主通信などの資料を掲載しています。

その他
・財務ハイライト ・株価情報 など

IRカレンダー

2016年1月下旬	2016年3月期 第3四半期決算発表
2016年4月下旬	2016年3月期 決算発表
2016年5月中旬	2016年3月期 決算説明会 (アナリスト向け)
2016年6月中旬	第5回定時株主総会

株式会社ジーテクト

本社 〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-20

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



第5期 株主通信

上半期のご報告

2015年4月1日～2015年9月30日

株式会社ジーテクト

証券コード：5970

世界TOPを目指して

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社が身を置く自動車業界では、近年、グローバルでの市場拡大に伴う競争の激化や、各地域ごとのお客様ニーズの多様化などにより、競争環境の変化が加速しております。このような変化の中で生き残るためには、原点に立ち返ってこれまでのビジネスを改めて見直すと共に、一歩先の状況を見据え、これまでにない武器を持ち、より競争力ある強靱な体質をつくり上げることが急務であると考えております。

当社では、このような状況認識を踏まえ、これまで築いてきたグローバルの現地生産体制を活かすと同時に、各地域のお客様ニーズを的確に捉えるための現地開発体制を拡大させ、よりフレキシブルかつスピーディーにお客様の求めるものを提案・提供し、真のグローバル企業として、競争力ある物造りの実現を目指してまいります。

なお、当第2四半期連結累計期間における業績及び当期の業績動向を踏まえ、株主の皆様のご期待にお応えし、更なる利益還元を推し進めるべく、中間配当につきましては、1株当たり2円増額し、1株当たり15円とさせていただきます。



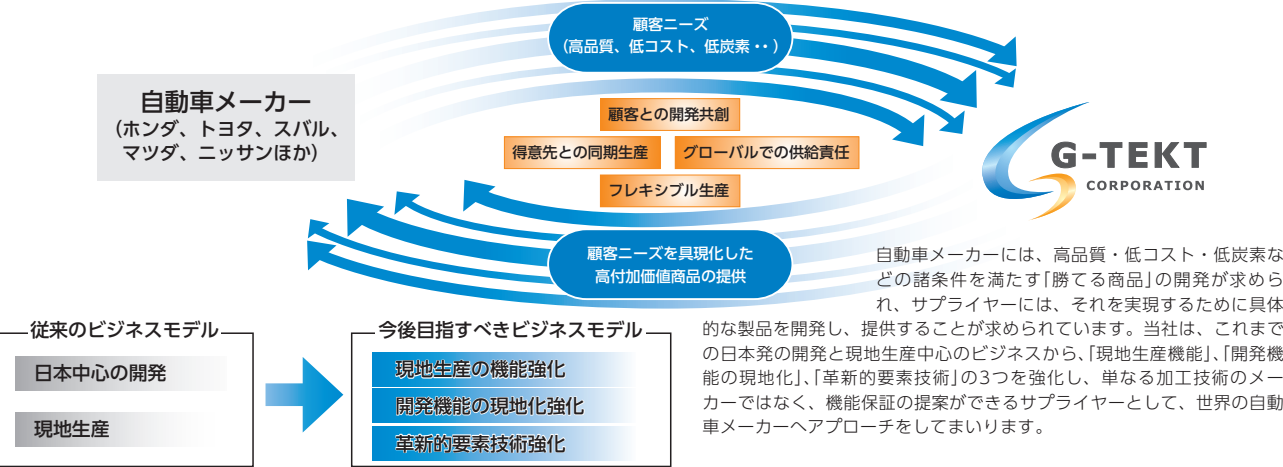
代表取締役社長 菊池 俊嗣

期末配当につきましても、1株当たり2円増額し、1株当たり15円とさせていただきます。これにより、年間配当は30円となります。

今後とも東証一部上場企業として、より一層の社会的責任を自覚し、全社一丸となって企業価値の更なる向上を図りながら、世界TOPを目指してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

2015年12月

当社の目指すビジネスモデル ～日本での開発と現地生産中心のビジネスから現地開発体制へ～



営業の概況

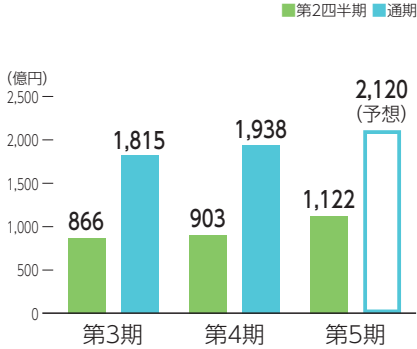
自動車業界におきましては、国内は、景気の足踏みや軽自動車増税等により、販売が低迷したことから、生産台数が減少しました。海外では、北米で好調な市場環境が続いていますが、東南アジアは回復が遅れる懸念が強まっており、中国でも需要の減速が目立っています。

このような経営環境の中、当社グループでは、開発・提案力を更に強化し、よりタイムリーかつフレキシブルに世界各地のお客様の多様なニーズに対応できる物造り体質の実現に

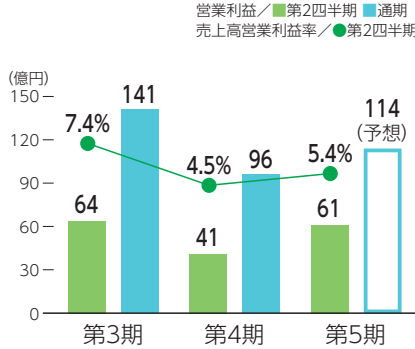
取り組むとともに、受注変動に柔軟に対応する生産・技術領域の体質改善に取り組み、全社的原価低減を目指しています。

当第2四半期連結累計期間の業績については、国内・中国の減産等の影響があったものの、北米・アジアの増産が売上を牽引し、売上高は112,185百万円(前年同期比24.2%増)、営業利益は6,060百万円(前年同期比48.5%増)、経常利益は5,463百万円(前年同期比38.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,462百万円(前年同期比50.3%増)となりました。

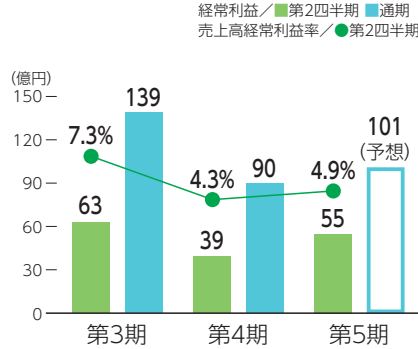
売上高



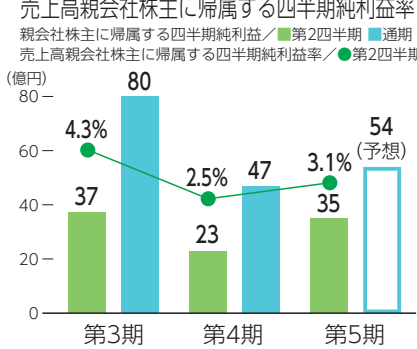
営業利益／売上高営業利益率



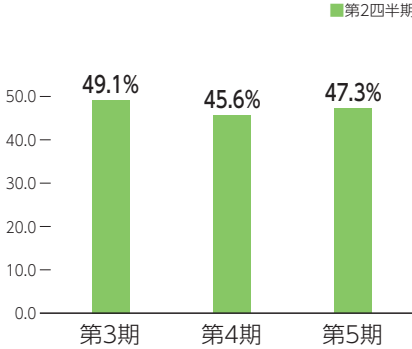
経常利益／売上高経常利益率



親会社株主に帰属する四半期純利益



自己資本比率



増配いたしました。

当第2四半期連結累計期間における業績及び当期の業績動向を踏まえ、株主の皆様のご期待にお応えし、更なる利益還元を推し進めるべく、中間配当につきましては、1株当たり2円増額し、1株当たり15円とさせていただきます。期末配当につきましても、1株当たり2円増額し、1株当たり15円とさせていただきます予定です。これにより、年間配当は30円となります。

今後も持続的な配当成長を確保できるよう、更なる経営努力を重ねてまいります。

工場見学会を開催いたしました。

株主様を対象とした工場見学会が10月13日に行われました。3回目となる今回は、さくら市にある栃木工場で行われ、17名の株主様が参加されました。

栃木工場は、ジーテクトの国内の拠点では唯一、トランスミッション部品を製造しており、月産120万個の部品を、ホンダ様をはじめ、富士重工様やジャスコ様など多くのお取引先様へ供給しております。

当社の事業、栃木工場についての説明の後、工場内を見学され、プレスや切削加工の各製造段階の説明を聴きながら、材料から製品が出来上がるまでの過程を見学されました。

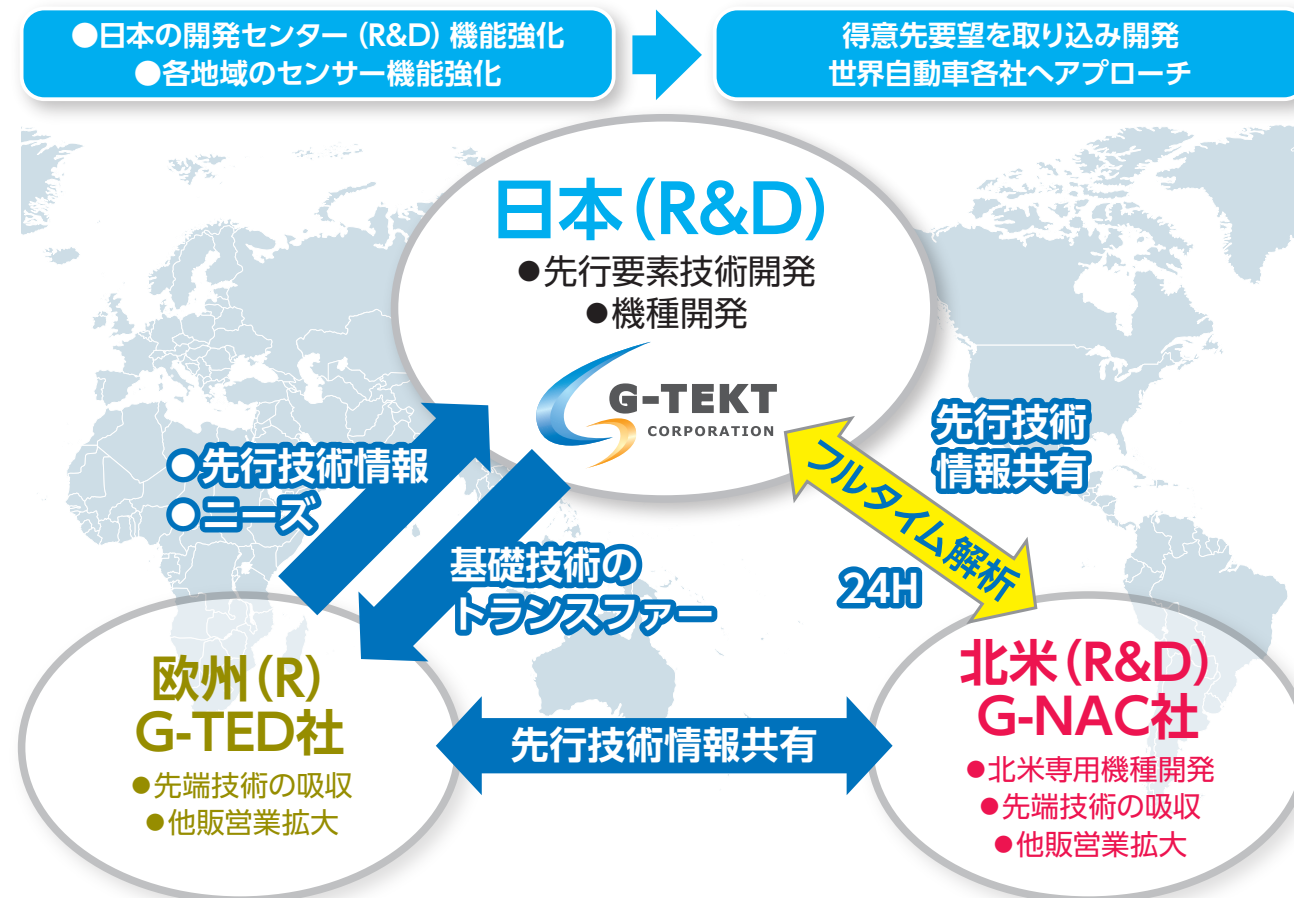
今後も、工場見学会を引き続き企画してまいります。ご応募を、お待ちしております。



グローバル R&D戦略

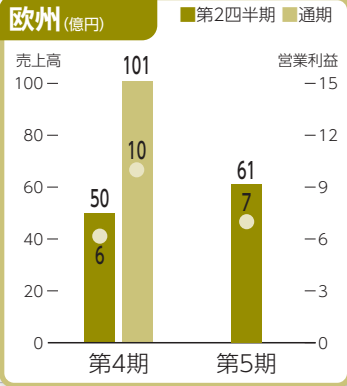
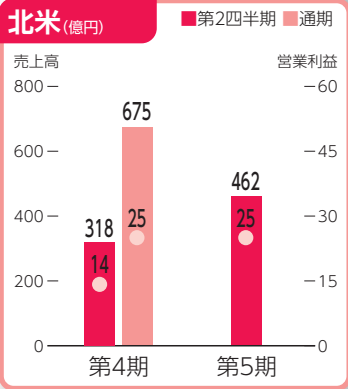
G-TEKTのR&Dグローバル戦略として、「各地域のセンサー機能の強化」「日本の開発センター機能の強化」により、「得意先要望を取り込んだ開発」と「自動車各社へのアプローチ」を進めてまいりました。今期の欧州G-TED社の設立により、日本、北米、欧州のグローバル体制が構築されました。

日本・北米G-NAC社の間では、24時間フルタイム解析や先行技術・情報の共有を行っております。また日本・欧州G-TED社の間では、欧州から日本へ「先行技術情報とニーズ」のフィードバック、日本から欧州へは、これらの情報に基づいた「基礎技術のトランスファー」を行い、将来に向けた受注拡大、「新規ビジネス創出」の実現を目指します。

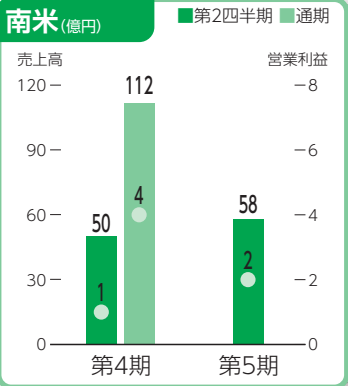
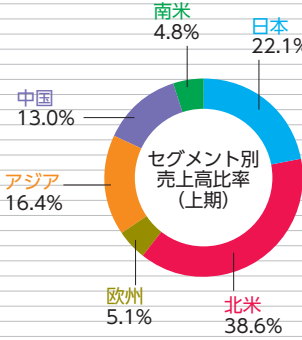


全世界対応の企業規模と展開力を実現し、コスト競争力の更なる向上を図ります。

売上高は、得意先の増産による量産売上の増加や新機種立ち上げによる型設備売上の増加に加え、為替影響により、46,152百万円(前年同期比45.1%増)となりました。セグメント利益(営業利益)は、増収効果等により、2,501百万円(前年同期比76.5%増)となりました。

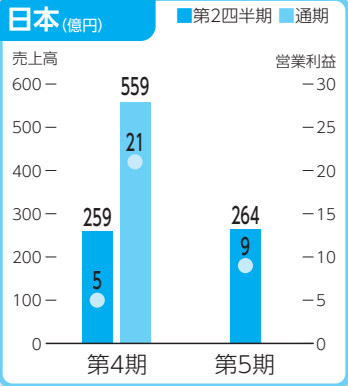
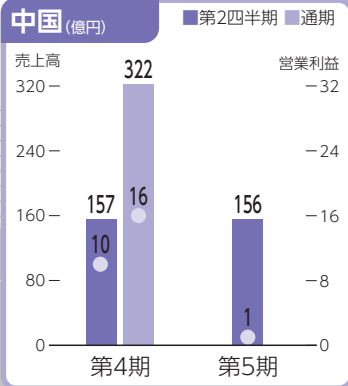


売上高は、型設備売上の増加に加え、為替影響により、6,147百万円(前年同期比22.5%増)となりました。セグメント利益(営業利益)は、労務費及び製造経費の増加等があったものの、増収効果により、722百万円(前年同期比29.1%増)となりました。

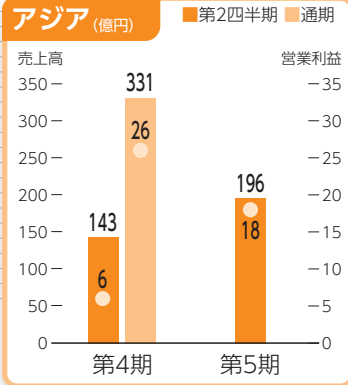


売上高は、量産売上及び新機種立ち上げによる型設備売上の増加等により、5,783百万円(前年同期比16.3%増)となりました。セグメント利益(営業利益)は、増収効果等により、214百万円(前年同期比212.3%増)となりました。

売上高は、生産台数の減少や機種構成の悪化があったものの、為替影響により、15,560百万円(前年同期比0.7%減)となりました。セグメント利益(営業利益)は、機種構成の悪化や、減価償却費の増加により、75百万円(前年同期比92.2%減)となりました。

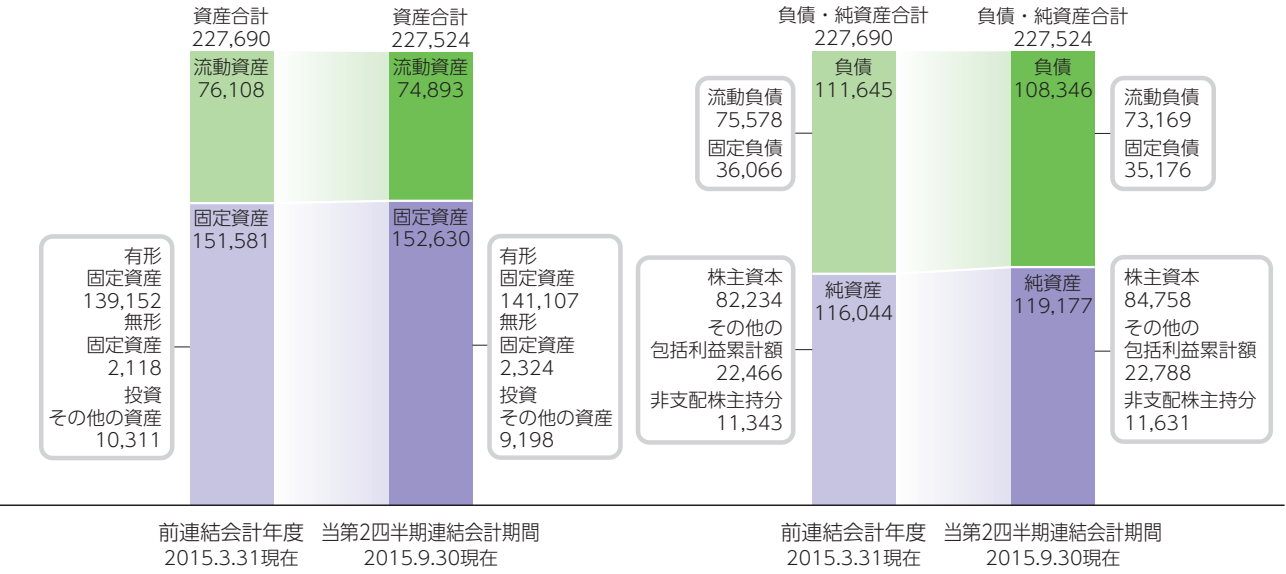


売上高は、主要得意先の減産による量産売上の減少があったものの、試作売上の増加等が寄与して、26,446百万円(前年同期比2.1%増)となりました。セグメント利益(営業利益)は、減価償却費の増加があったものの、生産・技術領域での原価低減活動を強力に行った結果、918百万円(前年同期比71.4%増)となりました。

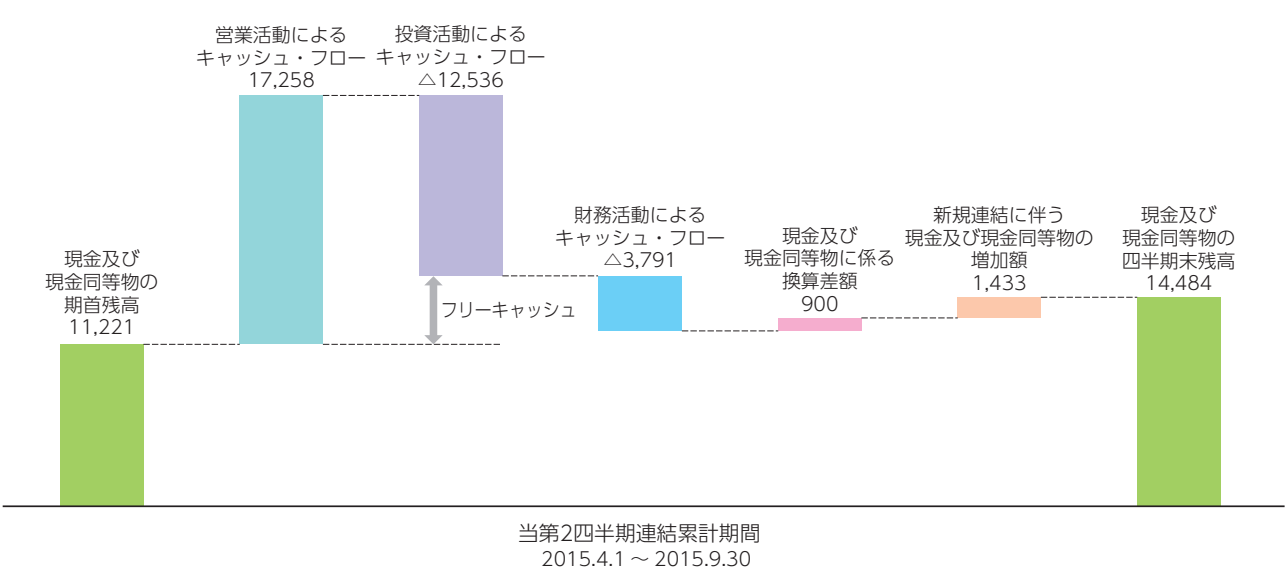


売上高は、主力市場であるタイでの生産が回復基調にあり、19,627百万円(前年同期比37.2%増)となりました。セグメント利益(営業利益)は、増収効果に加え、昨年度からのタイでの原価低減の取り組み等により、1,813百万円(前年同期比185.2%増)となりました。

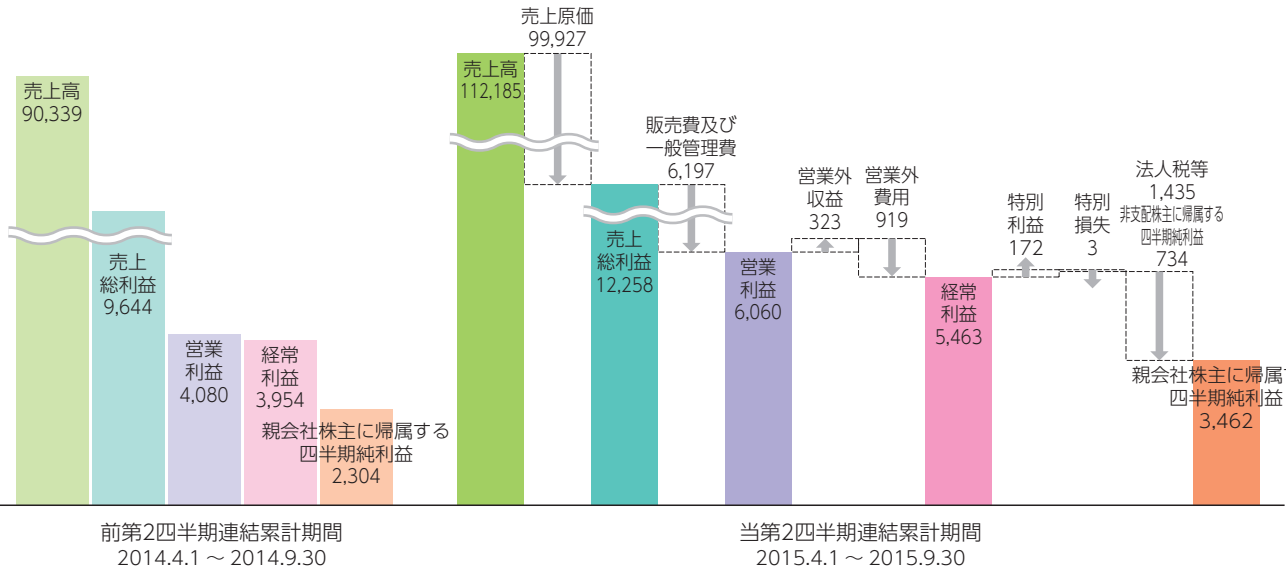
四半期連結貸借対照表 (要旨) (百万円)



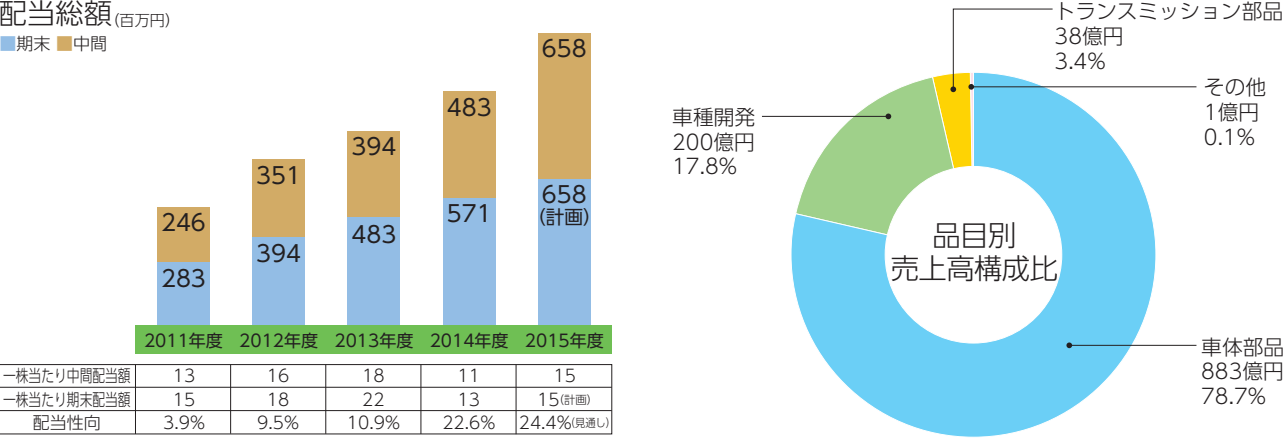
四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (百万円)



四半期連結損益計算書 (要旨) (百万円)



財務のポイント



当社の配当政策は、安定配当を基本とし、業績、成果に基づく利益還元を継続的に行うこととしております。1株当たり中間配当は、当期の業績動向を踏まえ、更なる利益還元を推し進めるべく、1株当たり2円増額し、1株当たり15円と決議いたしました。期末配当につきましても、従来の予想を修正し、1株当たり2円増額した15円の配当を予定しており、年間で30円の配当を計画しております。

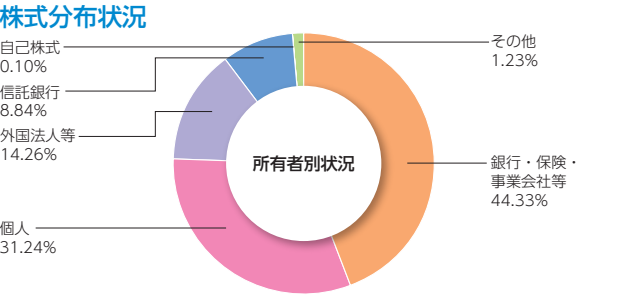
車体部品は、主に北米の主要得意先の増産により、前年同期に比べ、124億円増加し、883億円となりました。車種開発には、金型や溶接設備などの生産設備と試作等とありますが、北米における新機種立ち上がりが増加したことに伴い、型設備売上が増加したこと、国内における非量産売上が増加したことにより、前年同期に比べて90億円増加し、200億円となりました。トランスミッション部品は、ATやCVTの構成部品を生産しておりますが、インドネシアG-TIM社での増産などにより、前年同期に比べ、5億円増加し、38億円となりました。

会社概要 (2015年9月30日現在)	
■社名	株式会社ジーテクト
■創業	1947年4月1日
■設立	1953年11月4日
■資本金	4,656,227,715円
■代表者	菊池俊嗣
■事業内容	車体部品、トランスミッション部品の製造販売、金型・溶接設備等の製作販売
■国内拠点	本社、埼玉工場、滋賀工場、群馬工場、栃木工場、C&C栃木、埼玉工場羽村事業所、羽村事務所
■海外拠点	(連結子会社17社、非連結子会社1社、持分法適用関連会社1社) アメリカ Jefferson Industries Corporation (JIC) Jefferson Southern Corporation (JSC) Austin Tri-Hawk Automotive, Inc. (ATA) G-TEKT America Corporation (G-TAC) G-TEKT North America Corporation (G-NAC) カナダ Jefferson Elora Corporation (JEC) メキシコ G-TEKT MEXICO CORP S.A.DE C.V.(G-MEX) ※1 G-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V.(G-ONE) ブラジル G-KT do Brasil Ltda. (G-KTB) イギリス G-TEKT Europe Manufacturing Ltd. (G-TEM,G-TEM2,G-TEM3) ドイツ ※2 G-TEKT (Deutschland)GmbH. (2015年7月設立) 中国 Auto Parts Alliance (China) Ltd. (APAC,APAC2) Wuhan Auto Parts Alliance Co.,Ltd. (WAPAC) Conghua K&S Auto Parts Co., Ltd.(CKS) インド G-TEKT India Private Ltd. (G-TIP) タイ G-TEKT (Thailand)Co.,Ltd. (G-TTC) G-TEKT Eastern Co.,Ltd. (G-TEC,G-TEC2) Thai G&B Manufacturing Ltd. (TGB) インドネシア PT.G-TEKT Indonesia Manufacturing (G-TIM)

※1 持分法適用関連会社
※2 非連結子会社

役員 (2015年9月30日現在)	
代表取締役社長 社長執行役員	菊池俊嗣
取締役 副社長執行役員	高尾直宏
取締役 専務執行役員	鈴木寛 品質保証本部長、経営企画室担当
取締役 常務執行役員	米谷正孝 営業本部長
取締役 常務執行役員	洞秀明 技術本部長
取締役 常務執行役員	石川美津男 海外事業本部長
取締役 常務執行役員	中西孝裕 生産本部長、生産本部埼玉工場長 リスクマネジメントオフィサー
取締役 常務執行役員	吉沢勲 事業管理本部長、コンプライアンスオフィサー、 法務部長
社外取締役	利根忠博
社外取締役	大胡誠 弁護士
常勤監査役	下垣司郎
常勤監査役	田村依雄
社外監査役	有賀茂夫 税理士
社外監査役	飯島誠一 公認会計士
常務執行役員	宮崎幸一 中国地域本部長、APAC董事長総経理
常務執行役員	原和彦 北米地域本部長、JIC代表取締役社長 G-NAC会長
常務執行役員	宮野茂 アジア地域本部長、G-TEC代表取締役社長、 TGB代表取締役社長
上席執行役員	石川智弘 技術本部副本部長、開発部長
上席執行役員	小久保正 技術本部副本部長
執行役員	石川隆司 購買本部長
執行役員	近藤巧 富士重工業事業責任者、技術本部副本部長、 生産本部栃木工場長
執行役員	菊池哲雄 生産本部群馬工場長
執行役員	菊池英次 経営企画室長
執行役員	内山雅保 南米地域本部長、G-KTB代表取締役社長
執行役員	藤澤恭司 事業管理本部副本部長、経理部長
執行役員	高山隆一 ATA代表取締役社長
執行役員	瀬古浩 欧州地域本部長、 G-TEM代表取締役社長
執行役員	矢端志津男 技術本部副本部長、プレス技術2部長
執行役員	林政行 G-TIM代表取締役社長
執行役員	廣瀧文彦 営業本部副本部長、営業1部長

株式の状況 (2015年9月30日現在)	
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	43,931,260株
株主数	2,621名



大株主 (上位10名 敬称略)		
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
本田技研工業株式会社	13,035,098	29.67
高尾博之	4,331,768	9.86
菊池俊嗣	2,904,480	6.61
ピーピーエイチ フィデリティ ビューリタン フィデリティ シリーズ イントリンシツク オポチュニティズ ファンド	2,400,000	5.46
TKホールディングス株式会社	2,145,344	4.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,767,000	4.02
株式会社ケー・ピー	1,480,800	3.37
高尾直宏	1,335,576	3.04
ステートストリートバンク アンド トラスト カンパニー	758,900	1.72
株式会社三菱東京UFJ銀行	576,000	1.31

(注) 当社は、2014年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。

株主メモ	
事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
公告の方法	当会社の公告は、電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

「株主様アンケート」集計結果のご報告

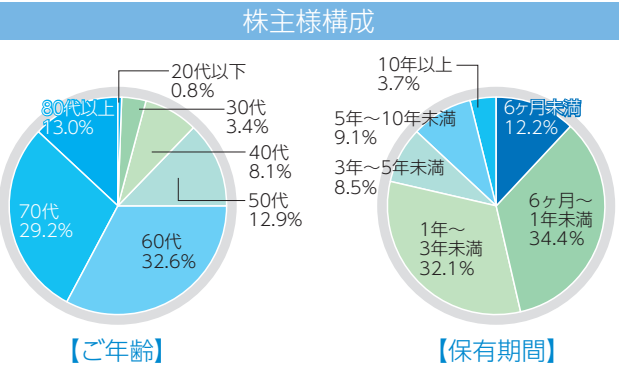
アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

前回の株主通信に同封させていただきましたアンケートに373枚(回収率9.5%)のご回答をいただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

率直なご意見も頂戴し、今後の経営に役立ててまいりたいと考えております。

ここで、アンケート結果の一部をご紹介します。

(調査期間 2015年6月19日～2015年7月31日)



「株主様アンケート」集計結果

当社株式保有にあたり最も望まれることをお聞かせください。

利益成長	45.3%
配当	34.9%
株主優待	14.8%
情報開示の充実	2.3%
個人投資家説明会	1.8%
その他	0.9%

当社株式の今後の保有方針をお聞かせください。

買い増し	12.4%
長期保有(5年以上)	33.2%
中期保有(2年～5年未満)	24.3%
短期保有(2年未満)	5.4%
売却済み	7.0%
未定	17.7%